

水辺のふるさと かつしか 夏号

2023.3-5

自然環境レポーター通信



写真のタイトル：根性のタンポポ

撮影場所：亀有3丁目 写真提供：慶蔵

水辺のふるさとかつしか 夏号

目次

- 1 55種の動植物調査結果P 2
- 2 自由レポートP 3~21
- 3 季節の写真集P 22~26
- 4 魚からの便りP 27~30
- 5 環境課からのお知らせP 31~32

担当編集のひとこと



こんにちは。環境課自然環境係の大野と申します。

令和5年4月より、自然環境レポートの担当をさせていただいております。
どうぞ宜しくお願い致します。

今回は、編集の際に私が考えていたこととお話ししたいと思います。

文章を作成したり写真を撮影する時は、何もない状態から完成形をイメージして言葉や構図を生み出し、それを何度もチェックして理想に近付けることと思います。読んだり見たりする時間は、完成に至るまでの過程に比べればとても短い時間かもしれませんが、それでも、そのプロセスによって磨かれた文章や写真には、おっ！と思わせるような魅力があると私は考えております。

これからも、皆さまのレポート等を拝見することを楽しみにしています。

環境課自然環境係大野

55種の動植物 調査結果(3月~5月)

【調査区3】計20種

- 〈鳥類〉コアジサシ、ツバメ、ツグミ、コサギ、シジュウカラ
- 〈昆虫〉クロアゲハ、ナミアゲハ、ツマグロヒョウモン
- 〈植物〉アカメガシワ、スギナ、**ナガミヒナゲシ**、**シロツメクサ**、スズメノエンドウ、**イモカタバミ**、セリ、オオバコ、カントウタンポポ、ツユクサ
- 〈爬虫類〉ニホンカナヘビ
- 〈両生類〉ニホンアマガエル

【調査区5】計18種

- 〈鳥類〉コアジサシ、ツバメ、オオヨシキリ、コガモ、ツグミ、ウグイス、コサギ、カワセミ、コゲラ、シジュウカラ
- 〈昆虫〉ナミアゲハ
- 〈植物〉アカメガシワ、スギナ、**ナガミヒナゲシ**、**シロツメクサ**、オオバコ、カントウタンポポ
- 〈爬虫類〉ニホンカナヘビ

【調査区4】計16種

- 〈鳥類〉ツバメ、ウグイス、シジュウカラ
- 〈昆虫〉ギンヤンマ、クロアゲハ、ナミアゲハ、ツマグロヒョウモン
- 〈植物〉アカメガシワ、スギナ、**ナガミヒナゲシ**、**シロツメクサ**、スズメノエンドウ、**イモカタバミ**、オオバコ、ツユクサ
- 〈爬虫類〉ニホンカナヘビ

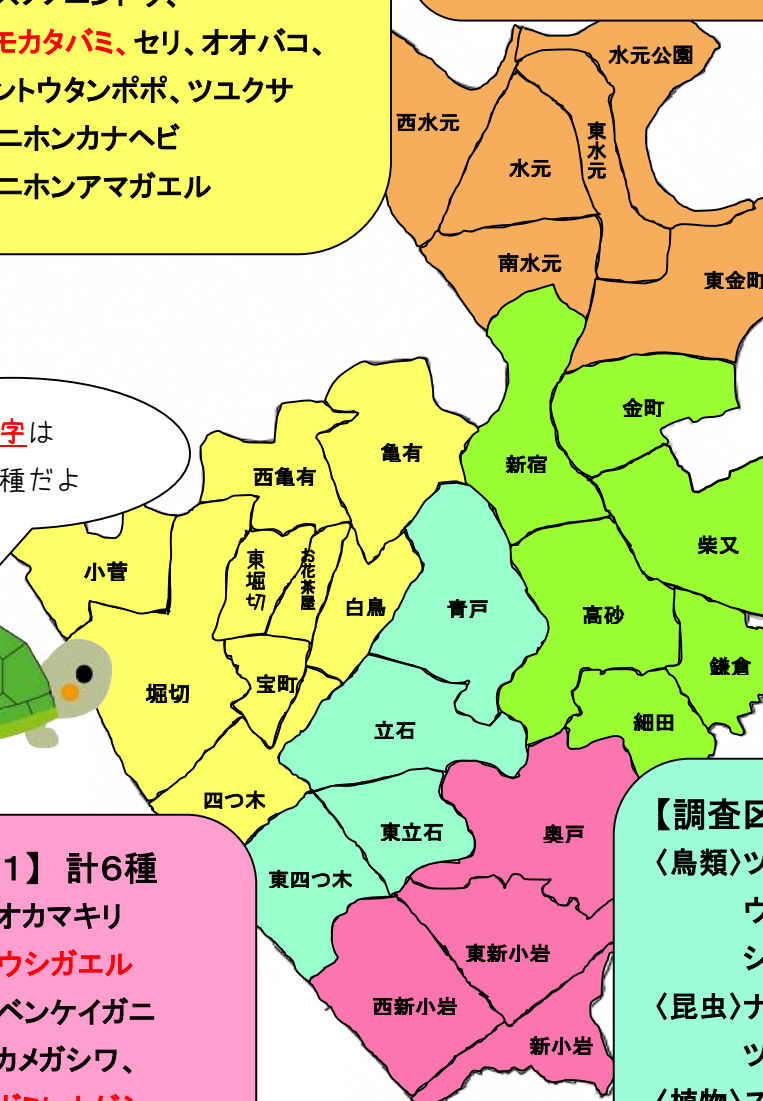
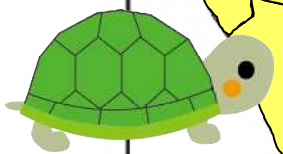
【調査区2】計12種

- 〈鳥類〉ツバメ、ツグミ、ウグイス、コサギ、シジュウカラ
- 〈昆虫〉ナミアゲハ、ツマグロヒョウモン
- 〈植物〉スギナ、**ナガミヒナゲシ**、**シロツメクサ**、スズメノエンドウ、**ジュズダマ**

【調査区1】計6種

- 〈昆虫〉オオカマキリ
- 〈両生類〉**ウシガエル**
- 〈甲殻類〉ベンケイガニ
- 〈植物〉アカメガシワ、**ナガミヒナゲシ**、**シロツメクサ**、**オオキンケイギク**

赤字は
外来種だよ



氏名	散歩の花子	町名	東新小岩	調査区	1-3
----	-------	----	------	-----	-----



ハナニラ(花菖)
／ネギ亜科

白一面のお花畑。
ハナニラの妖精たちです。
でも、匂いは、ニラの匂い！

／3月下旬



セイウニトコ／(ガマズミ科)

パチパチッと見える線香花火のような白いかわいい花です。
エルダーフラワーとして、このプランターの中で育っているのでしょう。
／4月下旬

氏名	散歩の花子	町名	西新小岩／東四つ木	調査区	1-4／2-8
----	-------	----	-----------	-----	---------



キリ／(キリ科)

以前にも出しましたキリです。
 こんな交通量の多い
 コンクリートの橋のもとで、
 鈴成りの花が咲きました。
 ／4月中旬

キンシバイ(金糸梅)
 ／(オトギリソウ科)

梅の花に似て、
 黄色がにぎやかです。
 同じころに咲くビヨウヤナギと
 よく似ていますが、微妙に
 花のつき方が違います。
 今年は、キンシバイの方が
 よく目立って咲いています。
 ／5月下旬



令和の小学生、田植えに挑戦。米どころ葛飾の記憶をつなぐ

広瀬 温 (調査区2)

5月28日、郷土と天文の博物館前の水田で「米づくり体験教室」の田植えが行われた。幼稚園年長組～小学6年生の30数名と保護者が集まり、まずは博物館のホールで小峰園子学芸員から田植えの手順について説明を受ける。子ども向けのレクチャーだが、大人でも知らないことが多く「葛飾の米づくり」について理解が深まる。

育てる米は「タロベエモチ」というもち米の一種で、味がよく、江戸時代から戦前まで葛飾の名産品としてお花茶屋周辺でも広く栽培されていたという。品種改良がそれほどされてなく、また周囲の水田の他品種と交雑しやすい欠点があるが、現在でも越谷市やつくばみらい市で育てられている。

4月23日に種まきが行われ、鉢を持ち帰って育てた家庭もある。苗は生長するにつれて葉の数が増え、5週間で6葉くらいの「中苗」に育つ。機械による田植えでは

1～3葉の「稚苗」を用いるため、5月のGWに千葉や埼玉で田植えを目にする機会も多い。ちなみに7～10葉は「成苗」と呼ばれるそうだ。

苗を2～3本、利き手で鉛筆を持つようにつかんで植えていくのがコツ。「植える」というより「差し込む」といった感じで、田植えのことを「稲差し」と呼ぶ地域もあるという。

いよいよ屋外に出て田植えに取りかかる。薄曇りで気温もそれほど高くない。子どもたちは12名くらいずつ「なまず/めだか/うなぎ」の3班に分かれ、班ごとに6～7名の「田んぼサポーター」が見守る。

細長い田んぼに足を踏み入れ、南北に張られたロープを目安に横一列に等間隔で立つ。

大人から渡された苗を2～3本つかんで、ロープのビーズを目印に泥の中へ差し込んでいく。目の前のビーズ3か所くらいに植え、長靴で開けた穴をならしながら後ろ向きに進む。なかなか難しいようで、あちこちで苗が浮いている。生まれて初めての体験、最初はうまくいかないが、2～3回繰り返すうちにスムーズに進むようになる。小学生も高学年となると飲み込みが速く、実際の田植えでも戦力となっただろう。

葛飾区から水田が消えて久しい。親たちも実際の田植えを知らない世代だが、区内の小学校や水元公園では体験学習が続けられている。夏休みには自宅に持ち帰り、10年前はわが

家のベランダでもバケツでイネを育てていた。地域を支えた米づくりを実際に体験する機会は、葛飾の自然環境や暮らしを考えるきっかけとなるだろう。

秋の収穫まで、イネの生長とともに田んぼで暮らす生きものの観察を続け、「水辺のふるさと かつしか」の生態系を見守っていききたい。



葛西用水を暗渠化。生きものをつなぐ緑の回廊・曳舟川親水公園

広瀬 温 (調査区2)



郷土と天文の博物館の前にはかつて葛西用水が流れ、昭和初期まで見渡す限りの水田が広がっていた。水田は消え、用水は暗渠になったが、曳舟川親水公園として整備され、生物にとってのコリドー「緑の回廊」となっている。

2018年3月、水元ネイチャープロジェクトの中島幸一さんの案内で「春の自然観察会」が開かれた。水元公園のように自然豊かとは言えないが、住宅地を流れる水辺の公園として生きものの生命をつなぎ、住民が散歩を楽しむオアシスとなっている。先日、中島さんに改めて話をうかがうと、曳舟川親水公園は「線」としてだけではなく、周辺の蓮光寺や葛飾野高校と結びつき、生きものをつなぐ「面」として機能しているという。

5月下旬の昼下がり、親子連れがザリガニ獲りを楽しんでいた。餌はコンビニでも売っている「つまみのイカ」で、50年前と変わらない。50年前、コンビニはまだなく、日本人にとってはコンビニよりアメリカザリガニのほうがつきあいが長い。

6月1日からアメリカザリガニとアカミミガメが「条件付特定外来生物」に指定され、一度飼いはじめたら池や川への放流が禁止された。人の手で持ち込んだ外来種とどう付き合うのか、在来種や固有の生態系の悲鳴が聞こえてくる。

北へ向かって進むと、旧水戸街道の手前で親水公園は終わる。常磐線のガードをくぐってさらに進み、古隅田川が通っていた跡を越えると、足立区に入る。足立区では多くの区間で葛西用水が開渠として残っている。用水を暗渠化して親水公園として整備するのと、開渠の水路として残すのと、どちらが生態系にやさしいか、意見は分かれるだろうが、個人的には太陽の光を浴び、トンボやツバメが飛び交う開渠の水路に可能性を感じる。

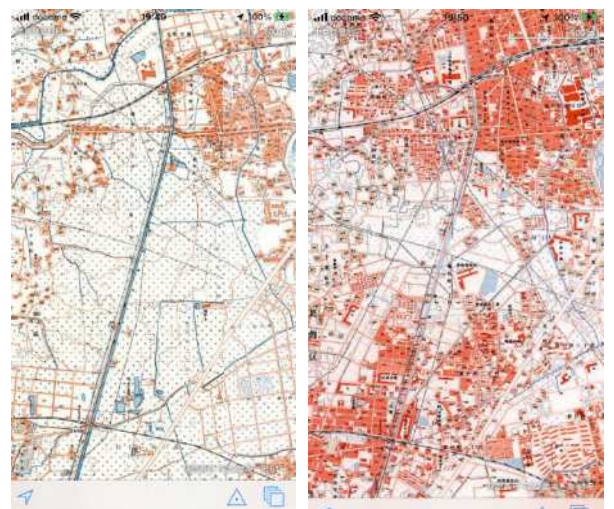
とはいえ、昭和30年代に曳舟川の周辺に引越してきた方の話をうかがうと、周囲に広がっていた水田が急速に宅地化され、用水に家庭や工場の排水が流れ込んだ。メッキ工場からの排水もあり、魚も姿を消した。汚いし臭いし、蓋をかけて暗渠化され、ホッとしたという。

昭和30年代まで、葛飾の水田に水を供給し、米づくりを支えていた葛西用水。高度成長期、生活排水が流れ込んで水質が悪化すると蓋をされ、暗渠化されたが、現在は親水公園として整備され、夏になるとジャブジャブ池に子どもたちが集まる。

江戸後期から明治初期まで、縄で舟を引いて客を乗せる「曳舟」が往来した水路は、四季を通じて生きものが往来する緑の回廊となり「水辺のふるさと かつしか」の生態系の一翼を担っている。



歌川広重「名所江戸百景 / 四ツ木通用水引ふね」
(郷土と天文の博物館所蔵)



左/昭和7年、葛飾区が誕生した頃、亀有駅周辺や旧水戸街道沿いは市街化されているが、葛西用水周辺には一面、水田が広がっている。

右/昭和30年代に入ると、お花茶屋周辺も市街化されるが、まだまだ水田が多く、池も点在する。

(『東京時層地図』(一財)日本地図センターより)



上/足立区内を流れる葛西用水。水路にコイが群れ、日光を浴びてアカミミガメがくつろぐ

下/「四ツ木めだかの小道」子どもたちが、ザリガニ、ヌマエビ、そしてメダカではなくカダヤシと戯れる

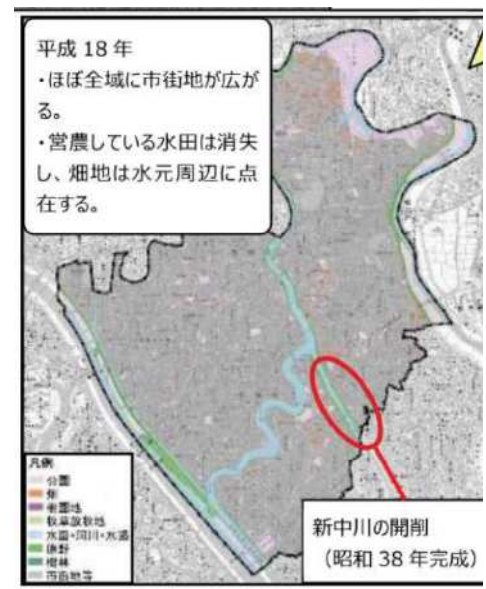
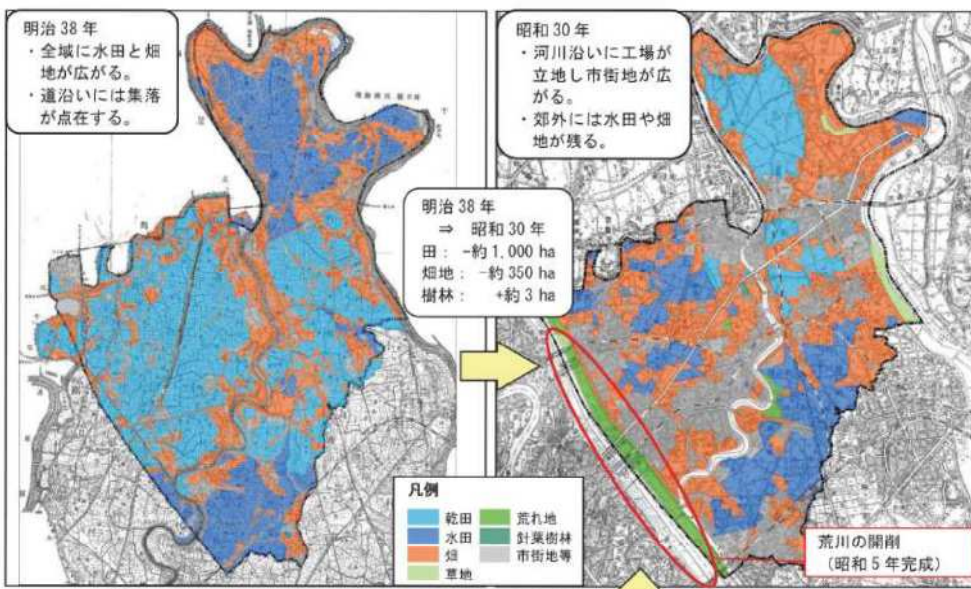
下段/葛飾区の「土地利用の変化」
明治38年(1905)当時、葛飾区内全域が水田か畑で、人の手の入った自然環境に囲まれていた。

震災・戦災を経た昭和30年(1955)になると、川沿いに工場が進出、市街地が増え、水田はほぼ半減する。さらに半世紀後の平成18年(2006)、全域が市街地化され、畑が水元や柴又にわずかに残る。

「水辺のふるさと かつしか」から田んぼがなくなり、多くの水路が暗渠となり、100年前、50年前から、生きものを取り巻く自然環境は激変している。

(葛飾区「第2次生物多様性かつしか戦略」資料より)

消えた水田、失われた水辺、変わる自然環境



水辺を彩るハナショウブ。荒川放水路に「名所江戸百景」が甦る

広瀬 温 (調査区2)



5月下旬、荒川河川敷・堀切水辺公園のハナショウブが今年も花を咲かせた。「花菖蒲を育てる会」の方々が育て、人工河川・荒川の河川敷に初夏の彩りを添えている。この時期、堀切菖蒲園から足を延ばし、川風に揺れるハナショウブを楽しむ人が増えている。

「2023葛飾菖蒲まつり」に合わせ、6月10日、郷土と天文の博物館元学芸員・橋本直子さんと日本花菖蒲協会の清水弘会長の記念講演会が堀切地区センターで開かれた。橋本学芸員は2011年11月の「ブラタモリ/荒川編」にも出演された、東京低地の河川史研究の第一人者だ。清水会長の講演と合わせ、葛飾の花菖蒲の歴史を大づかみし、花菖蒲は「植物」のカテゴリーを超え、人の手で改良が重ねられた「芸術品」であり、菖蒲園は「自然遺産」というより葛飾が誇る「文化遺産」だと再認識する。

荒川河川敷では爆走するサイクリストや土手を黙々と走るランナーをよく見かけるが、自然を楽しむ人は稀だ。週末には、野球・サッカーに励む少年少女、応援で見守る親が集まるが、荒川の自然環境に親しむ気配はない。何も無い空間の広がりを楽しむには、永井荷風の境地に達しないと難しいのかもしれない。

春にも訪れた、首都高堀切JCT南下のビオトープに立ち寄る。水路の脇にいくつもの穴が開いている。遠くから見ていると、何か赤い生物が顔を出す。ベンケイガニだ！ 隣のグラウンドの野球少年に見つからないといいね。

北上し、足立区に入る。常磐線の高架下辺り、梅雨の夕暮れ、南風に乗って潮の香が漂う。ルアーフィッシングを楽しむ人に聞くと、ズキヤクロダイがかかるという。30年前に比べれば水はずいぶんきれいになったが、一度家に持ち帰ったところ、泥臭くて食べられたものではなく、リリースしてもっぱらゲームフィッシングとして楽しんでいるそうだ。

京成本線では鉄橋の架替工事が始まり、車窓から毎日のように荒川を眺めているが、荒川河川敷に足を延ばすのは2カ月に1回程度だ。葛飾区民の平均では、1年に何回、河川敷を訪れるのだろう。

プロナチュラリスト・佐々木洋さん直伝の自然とつきあう極意「親・知・守・伝」を復唱する。自然に「親しむ」→疑問に思ったことは調べて「知る」→大切なものを「守る」→次の世代に「伝える」。

週末の河川敷にキッチンワゴンを誘致するなど、ハナショウブやビオトープに続くしかけを工夫し、荒川に「親しみ」、放水路の歴史を「知り」、河川環境を「守って」、次世代に「伝える」作戦を考えたい。



歌川広重「名所江戸百景/堀切の花菖蒲」(郷土と天文の博物館所蔵)

野鳥好き中学生による葛飾区其自然観察日記！

作成者：千葉美文

調査区域：2, 3

3月

場所が書いていない場合はすべて青戸平和公園です。

9日 晴れ ツミメス渡来。

10日 晴れ ツミメス渡来。

11日 晴れ ツミメス渡来。オスはタカラトミーの電波塔で見張り。上千葉砂原公園ではツミが頻繁に交尾する。4回中3回成功1回失敗。

13日 曇り ツミメス渡来。

4月

8日 曇り ウグイスがよくさえざる。



ウグイス

14日 晴れ ツミのオスが来なくなり代わりに若いオスが現れるようになってくる。若いオスはメスに交尾しようと何回も試みるが失敗する。

23日 曇り 若いオスが地面に降りて少し前に捕って落としたエサを持っていこうとしていた。エサはキジバトだと思われる。



この後若いオスもメスもいなくなり今年はツミの繁殖は観察できませんでした。(上千葉砂原公園のツミも同じ) 残念ですが仕方がありません。

5月

13日 曇り 青戸駅前のビルでイソヒヨドリがさえずっているところを発見。イソヒヨドリは現在都会進出中の鳥なので青戸でどのような生活をしているのか気になりますね。

※写真は後日撮影



←メス



←オス (川エビをくわえている。)

氏名：藤並 剛

町名：亀有

調査区：3

3月5日(日)午後2時頃、天気は曇り(少し風あり)、気温は12度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、ヒヨドリ、ムクドリ、シジュウカラ(3)、オオバン(1)を見つけた。植物は、ミチタネツケバナ、ナズナ、ホトケノザ、ノゲシ、カントウタンポポ、オオイヌノフグリを見つけた。

3月21日(火、祝)午後2時頃、天気は曇り(風なし)、気温は18度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、シジュウカラ(3)、ツグミ(1)、タヒバリ(6)、ハクセキレイ(2)、メジロ(3)、カワウ(2)を見つけた。植物は、カントウタンポポ、セイヨウタンポポ、ノゲシ、ハコベ、ナズナ、ナガミヒナゲシ、ニワゼキショウ、キュウリグサ、ミチタネツケバナ、オランダミミナグサ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、カラスノエンドウ、オオイヌノフグリ、ハルジオン、ムラサキツメクサ、スズメノカタビラを見つけた。ハクモクレンやシモクレンの花が咲き、ケヤキの若葉も出始めた。ソメイヨシノも、8部咲きとなった。(3/14、都内でサクラの開花宣言があった)

4月9日(日)午前10時頃、天気は晴れ(風あり)、気温は15度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、ムクドリ、カルガモ(1)を見つけた。昆虫は、ナミアゲハ(1)を見つけた。植物は、シロツメクサ、ムラサキツメクサ、スズメノエンドウ、カラスノエンドウ、ギシギシ、アメリカフウロ、スギナ、スズメノカタビラ、ノゲシ、カタバミ、ハコベ、ハルジオン、ナガミヒナゲシ、セイヨウタンポポ、ホトケノザ、カントウタンポポ、ニワゼキショウ、イヌムギ、ヒメツルソバ、ナズナ、ヒメオドリコソウ、キュウリグサ、オランダミミナグサを見つけた。ハナミズキの花が開花し、ケヤキ・コナラ・クヌギの新緑が美しい。

4月23日(日)午後2時頃、天気は晴れ(風あり)、気温は20度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、スズメ、コアジサシ(6)、ツバメ(1)、ハクセキレイ(2)を見つけた。昆虫は、ヤマトシジミ(3)、モンシロチョウ(1)、ナミアゲハ(2)を見つけた。植物は、カモジグサ、ミチタネツケバナ、オニタビラコ、ヒルザキツキミソウ、シロツメクサ、カタバミ、ハルジオン、セイヨウタンポポ、イヌムギ、ムラサキツメクサ、オオイヌノフグリ、スズメノカタビラを見つけた。ハナミズキの花は終わり、バラやサツキが咲いていた。ケヤキやクスノキの新緑が美しい。

5月3日(水、祝)午後2時頃、天気は晴れ(風あり)、気温は23度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、ムクドリ、スズメ、ツバメ(1)を見つけた。昆虫は、アオスジアゲハ(3)、モンシロチョウ(4)、ヤマトシジミ(2)、

ナミアゲハ(3)、ツマグロヒョウモン(1)を見つけた。植物は、カモジグサ、カモガヤ、コヒルガオ、イモカタバミ、ムラサキカタバミ、カタバミ、スズメノカタビラ、オオバコ、イヌムギ、シロツメクサ、ムラサキツメクサ、セイヨウタンポポ、ハルジオン、ヒメジョオンを見つけた。

5月28日(日)午前10時頃、天気は晴れ(風あり)、気温は22度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、スズメ、ムクドリ、ツバメ(1)、シジュウカラ(1)を見つけた。昆虫は、キタキチョウ(1)、モンシロチョウ(2)を見つけた。植物は、ヒメツルソバ、ヒルザキツキミソウ、ノゲシ、セイヨウタンポポ、カモジグサ、カタバミ、ムラサキカタバミ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、スズメノカタビラ、ヘラオオバコ、コヒルガオ、ハルジオン、ヒメジョオンを見つけた。ヤマモモやビワの実を見つけた。

2023年の春の季節は、サクラの開花から始まり、ヤマモモやビワの実を発見したところで終わった。植物は、季節の移り変わりをいち早く知らせてくれる。ソメイヨシノの開花も、今年も早かったし、5月中に都内で、30度をこえる最高気温があったせいか、夏の野草が生い茂り、ビワの実もすでに色づいている。地球温暖化は、我々の生活に影響を与えている。地域の身近な自然を観察し、区民の皆様にお伝えすることが自然・環境レポーターとしての私の立場であるが、レポーター一人ひとりの自己啓発と実践が問われるのが今だと思う。いくらマスメディア等で、SDGsを宣伝しても、我々一人ひとりが実践しなければ、地域の自然を守ることはできない。地域を足がかりせずに活動しても、地球環境の問題を解決できるはずもない。セクションや立場だけでSNS等で発信し、自分で何もしない大人が多いことを実感している。せめて次の世代の子どもたちに、負の遺産を残す人にはなりたくない。環境問題をはじめとした課題と、社会と経済の課題が同時に話し合われ、実践されてはじめて世界が動き出すことになると思う。日本にも、たくさんの課題が多いが、根本的な課題は少子化の問題だと考える。この6月までに、岸田政権は財源を含めて未来に向けての政策を提示するようだが、この問題を解決する手立ては、環境問題を解決することにある。識者が言うように、環境問題は体の問題であり、体の問題は子どもの問題である。子どもは自然であり、子どもを教育することによって、何とか社会に適用させようと大人は考える。しかし、自然をどうにかできると考えることが間違っている。地震や台風などの被害を小さくすることをできたとしても、なくすことはできない。それと同じように、子どもを有名大学へ入れることで、子どもの将来がすべて決まってしまうものでもない。子どもは、親の考えとおりに育つものでもない。しかし、植物のように、手入れをすることによって、方向を正すことできる。そのように考えて、実践を続けていきたい。(2023年5月28日)

氏名：となり 調査区4 2023年3月～5月

《《 鎌倉町の自宅の庭 》》基本的に自宅の庭だけを観察対象としています。

○カナヘビ

- ・尾が根元から切れた大きい個体 (写真3)
- ・傷がない大きい個体
- ・中くらいの個体 (写真2)
- ・小さい個体 (写真4)

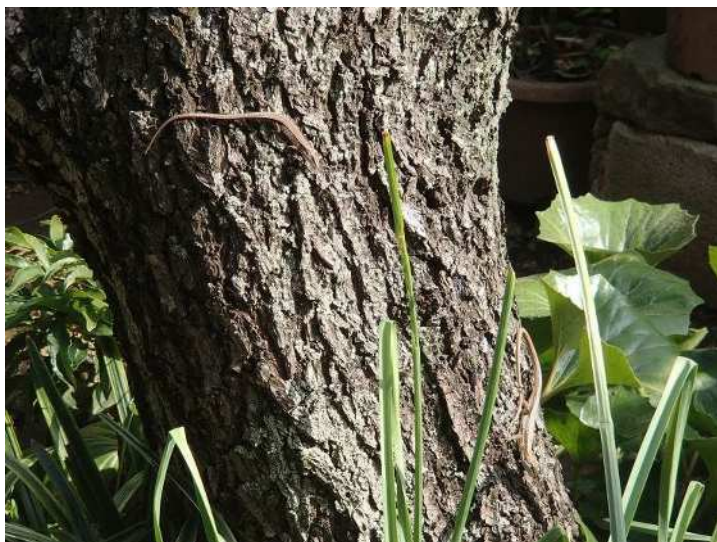


写真1 2023年3月22日



写真2 2023年4月16日 (中)



写真3 2023年4月16日 脱皮中 (大)



写真4 2023年4月23日 (小)

現時点で観察できたカナヘビは4個体だった。尾の切れた大きい個体は5月3日時点で尾が生えてきていたのですが、5月4日に家の前の路上で死んでいた。車に轢かれた様子はなかった。



← ハチ、シャクヤクの葉の上にいた。

2023年4月11日



2023年4月2日 ハエトリグモの仲間



2023年5月3日
ハチにハエトリグモが狩られました



←2023年4月16日
庭の水槽の抽水植物の間にクモ
が網を張っていた。



2023年5月21日 ハエトリグモの仲間



2023年4月16日 カマキリの子供、アブラムシを食べていた

2023年5月21日 ダンダラテントウ？

ハギについたアブラムシの周りにテントウムシがたくさんいた。



↑ヒメカメノコテントウ？

自然環境レポート R5/3~5月の巻

調査区 5

佐々木定治

この季節に感謝して暮らす



3/17 水元3丁目 レンギョウ



3/21 水元3丁目 タンポポ



3/21 水元3丁目 ツクシ

4/15 水元2丁目 カナヘビ



4/10 水元1丁目 アイリス



春の植物の絵を小学校の図画の時間に描いた記憶があります。担任は絵画教育の堪能な教員でした。その担任の教えは、「春の植物画を描くときは黄色をふんだんに使いなさい」ということでした。黄色は幸せの躍動の色です。

それ以来毎年春を迎える度に、「春は黄色」が頭の中に映像として呼び起されます。ものみな躍動する春は、身も心も解き放たれた感じを覚える季節です。特に今年の春はそう思わずにはられません。

こんな季節に出会えて



5/12 ユキノシタ 水元3丁目



5/28 スイレン 水元公園



↑ 5/28 アサザ

水元公園↑



5/30 ドクダミ 水元2丁目↓

5/30 季節の農作業 水元3丁目↓



自然の営みは、何と高貴なる事象なのだろうと本当に思います。その色彩に似せたようにはできますが人間には出せない特別な色合いと造形だと思うのです。ユキノシタとスイレンやドクダミの白は似ていて非なるもの。貴重種のアサザは「ごんぱち池」に静かに生息していますが、私の小学生のころの田舎ではこの季節には、ごく当たり前に出会うことのできる水草でもありました。

この季節だからこそ、植物（野菜を含めた）を育てる学びを子ども達に意識して授けたいと考え実践しています。そこに多くの虫も集まって来るのを期待しながら、子ども達の学びを「ひろげ」「つなげる」ことが、私の役目だと考えています。

氏名	K・N	町名	東金町	調査区	5
(水元公園正面入口～養魚場入口間の指定種の植物と昆虫)					
鳥類は大橋周囲～小合溜					
種類	植物・蝶々・野鳥 (令和5年 3～5 月 観察日 10 日)				

種類	3月	4月	5月	種類	3月	4月	5月
セイヨウタンポポ	5	600	8	シロツメクサ	0	5	8
ツユクサ	0	0	0	ユリカモメ	15	30	0
シジミチヨウ	0	10	2	カモ類	170	60	0
クロアゲハ	0	0	0	アオサギ	1	1	1
モンシロチョウ	0	1	7	コサギ	1	2	0

カントウタンポポの花数

令和5年春は路地観察でカントウタンポポを多数発見

- ・ 3月20日金町5丁目路地 (10個)
- ・ 3月27日水元某公園 (50個)
- ・ 4月4日金町3丁目路地 (5個)
- ・ 4月10日水元公園土手 (10個)
- ・ 3月26～4月15日東金町4丁目駐車場 (100個以上、令和4年は5個)

「NHKの朝ドラ「らんまん」では、カントウタンポポが出演中」
明治の初期はセイヨウタンポポがまだ日本に入らなかった。

1904年、牧野富太郎氏が日本に帰化と報告。現在の関係者の調査では、東京の88%がセイヨウタンポポだと書かれている。

公園内の
カントウタンポポ↓

3月に自宅のビワの花が咲き
5月下旬、黄色の実がなる。
(辞書では開花が晩秋から初冬、
初夏に実がなるだが、自宅の開花
は遅かった)



野鳥情報

① 「ダイダイポー」と鳴く野鳥は？

3月の某日、自宅前の電柱で野鳥の鳴き声あり、カメラをかまえた。最近、この野鳥は近所でも見かけていたが、鳴き声は初めて聴いた。

② つばめの巣づくり観察

・ つばめの飛来は4月中旬、南水元方面で1羽確認した。

(東金町4丁目～3丁目の観察の巣は、例年3箇所ある)

A地点・ 5月11日、古い巣にツバメは飛んでくるが、巣作りをしない。

5月20日大雨の日、近くの電線に2羽いる。22日、古巣に1羽入るがすぐ飛び立ち電線へ、そこにはもう1羽いた。昨年、カラスに雛をとられたことが影響しているか？見守りを継続する。

B地点・ 巣は3カ所あり、5月25日、管理人さんに親鳥が入っていると確認
(昨年は2回ともひなが5羽以上巣立っている)

例年より遅かったのが不安だったが、観察継続

C地点・ 個人の駐車場 5月16日親鳥を巣に確認、25日は抱卵中らしい

(昨年の巣は三箇所雛は16羽巣立った)

この地域の過去の空き巣確認はすでに4箇所ある。巣作りを一度止めると空き巣になる率が高いから心配だ。



葛飾区自然環境レポーター 自由レポート (2023年3~5月)

氏名：江戸川の小鮒	調査区：主に5-24、5-26	町名：東金町
-----------	-----------------	--------

3月19日(日) 東金町6丁目 江戸川堤防

3月に入ると、季節はあっという間にもの凄い勢いで春の装いへと変化を見せてくれる。

江戸川堤防の斜面には、アブラナ科の植物が黄色い花を大量に咲かせたことで、これまでの寒々しい景色が一変した(写真①)。土手一面に花が咲くと、心まで温くなるから不思議だ。ただ、この植物は果たして在来種だろうか、自分が幼少期にこの植物は土手にこんなに咲いていたのだろうか、人為的に種が蒔かれてはいないだろうか、などとふと考えてしまった。



写真① 江戸川堤防(住宅側)に咲く
アブラナ科の植物

4月1日(土) 水元公園

今年は桜の開花が、1953年に統計を取り始めてから、2020年・2021年に並んで最も早い3月14日だった。開花から2週間以上過ぎていたが、水元公園最奥部の小合溜沿いには、まだ満開の桜が咲いていた(ソメイヨシノではない)。毎年家族でこの桜を見に来ているが、垂れ下がった枝に丸い花を咲かせるという独特の咲き方がまた何とも美しく、今年も実に見事だった(写真②)。まだ見たことのないレポーターの方がいらっしゃるようでしたら、来年は是非一度見ていただきたいと思う。



写真② 水元公園 小合溜の桜

5月13日(土) 東金町6丁目地先 江戸川河川敷

5月に入り、約2週間が過ぎた。それにしても3・4・5月はあっという間に景色が冬から春そして初夏へと激変する。江戸川河川敷の植物はもうすっかり初夏の雰囲気だ。

この辺りは江戸川が蛇行している箇所、「金町」の「金」は「淵」という意味もあり、江戸川との関係でこのような地名になったのだろうと言われている(「かつしかの地名と歴史」2003 葛飾区郷土と天文の博物館 P.53)。そうした場所であることから、堤防が水害

季節の写真集 (3~5月)

バン 下山田隆
3/4 水産試験場



クロハネシロヒゲナガ 下山田隆
4/16 水産試験場



イチモンジチョウ 下山田隆
5/28 水元公園



アサザ 佐々木定治
5/28 水元公園



季節の写真集 (3~5月)

キタテハ むしあお
3/14 西水元



クロイトトンボ むしあお
5/28 水元公園



キジバトのつがい
むしあお
5/28 南水元



カマキリエッグ R
3/10 お花茶屋



季節の写真集 (3~5月)



アザレア
R 4/23
お花茶屋



デンドロ
ビウム
R 5/25
お花茶屋

俺の自転車が気に入ったようだ！
スズメバチ 瑛ちゃん



「フロリズ花壇」でポーズ
カワラバト 瑛ちゃん



季節の写真集 (3~5月)

根性のタケノコ 慶蔵
5/19 亀有香取神社



根性のタンポポ 慶蔵
5/19 亀有3丁目



コウガイビル 有泉桂子
5/31 花の木小学校



コブシの枝にキジバト 有泉桂子
5/28 堀切7丁目 青葉公園

季節の写真集 (3~5月)

クリスマスローズ Ryu
3/6 お花茶屋



ホタルブクロ Ryu
4/26 鎌倉野草園



ナミアゲハ Ryu
5/8 お花茶屋



葛飾柴又新八水路 魚からの便り-308

調査回数 調査日 地点		310			備 考
		2023/3/25			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	2 55-62			
2	ア ユ	14 71-93			
3	オ イ カ ワ	7 60-132			
4	オ オ ク チ バ ス	1 365			特定外来生物
5	カ ダ ヤ シ		19 20-37	12 17-35	特定外来生物
6	タイリクバラタナゴ		3 18-28		
7	ド ジ ヨ ウ		1 134		
8	ヌ マ チ チ ブ	21 26-66			
9	ハ ス	1 101			
10	ボ ラ	9 32-36			
11	メ ダ カ		11 24-30	4 24-35	
計		7種類55個体	4種類34個体	2種類16個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて11種類105個体の魚類が採集されました。
- ・ 雨、気温11.8℃、水温 本流15.7℃、新八水路13.5℃、新八ワンド14.6℃（13:30頃測定）

「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
 (10:00)1.80m (12:00)1.29m (14:00)1.22m

【参加者コメント】

- ・ 昼に、息が白く見える気温で、川の水のほうが暖かく感じました。
 水路より下流は、泥状の堆積物が多く、網を引いても閉じないほどでした。
 ボラが来ました。春です。ヒバリとキジも鳴いていました。対岸側にカモが群れていましたが、そろそろ渡去の季節かも。（KI）
- ・ 朝、水位が高いと思っていたら、1時間ぐらいの間にあっという間に下がって驚いた。
 堤防上の桜が満開なのに雨でひと気なし、水路とワンド脇にも桜が咲いていたけど、雨と寒さで花見を楽しむ余裕なし。
 雨天にも関わらず久しぶりに参加してくれたSさんに感謝。（SI）

【今後の調査日】

4月8日(土) 5月7日(日) 6月4日(日) 7月15日(土) 8月12日(土) 9月10日(日)
 HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-309

調査回数 調査日 地点		311			備 考
		2023/4/8			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	6 33-48			
2	オ イ カ ワ	10 61-135			
3	カ ダ ヤ シ		11 18-34	1 35	特定外来生物
4	カ ム ル チ ー		1 115		
5	タイリクバラタナゴ		1 26		
6	デ メ モ ロ コ	3 77-85			
7	ド ジ ヨ ウ		1 151		
8	ヌ マ チ チ ブ	27 30-70		1 38	
9	ブ ル ー ギ ル			1 78	特定外来生物
10	ボ ラ	20 29-197	5 30-33		
11	メ ダ カ		1 23		
計		5種類66個体	6種類20個体	3種類3個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて11種類89個体の魚類が採集されました。
- ・ 晴れのち曇りのち雨、気温11.8℃、水温 本流15.7℃、新八水路13.5℃、新八ワンド14.6℃（13:30頃測定）
- 「参考」江戸川の水位（観測所：千葉縣市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
（10:00）1.74m（12:00）1.53m（14:00）1.58m

【参加者コメント】

- ・ 北総線の鉄橋の上で、猛禽らしい鳥がカラスを攻撃していました。営巣しているのか。先月まで網が閉じないほどだった水底の泥や藻類が、分解したか流されたか、幾分ましになっていて、岸を離れても魚が採れました。（KI）
- ・ 今日は雨風で寒かったですが、段々と暖かくなって魚が増えてきてとても嬉しいです！（MO）
- ・ ワンド内で卵が産み付けられた木片を発見した。孵化が楽しみ。午後は川の水が暖かかった。測ってみたら気温と水温が4度近くも逆転していた。（SI）

【今後の調査日】

5月7日(日) 6月4日(日) 7月15日(土) 8月12日(土) 9月10日(日)
HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-310

調査回数	調査日	調査地点	312			備考				
			2023/5/7							
			本流	新八水路	新八ワンド					
1	ア	シ	シ	ロ	ハ	ゼ	3 52-61			
2	ウ		ナ		ギ		1 101			
3	オ	イ	カ	ワ			19 63-140			
4	オ	オ	ク	チ	バ	ス	2 360-420			特定外来生物
5	カ	ダ	ヤ	シ				3 23-48		特定外来生物
6	コ				イ		1 515			
7	コ	ク	チ	バ	ス		1 315			特定外来生物
8	ゴ	ク	ラ	ク	ハ	ゼ	1 63			
9	ス	ミ	ウ	キ	ゴ	リ	6 27-42			
10	デ	メ	モ	ロ	コ		17 63-81			
11	ド	ジ	ヨ	ウ				2 75-82		
12	ヌ	マ	チ	チ	ブ		64 30-73			
13	ボ				ラ		4 184-445			
14	マ		ハ		ゼ		1 30			
15	マ		ル		タ		1 25			
計						13種類121個体	2種類5個体	0種類0個体		

- ・上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・江戸川本流、新八水路、あわせて15種類126個体の魚類が採集されました。
（新八ワンドは、本流の水位が下がったため、ワンドの真ん中にしか水がなく、しかも泥が深くてそこまで行けず採集ができなかった。）
- ・雨、気温14.8℃、水温 本流19.8℃、新八水路19.3℃（13:30頃測定）
「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
（10:00）1.54m（12:00）1.42m（14:00）1.49m

【参加者コメント】

- ・デメモロコが岸近くでまとまって採れました。丸々した個体が多く、産卵が近いのかなと思いました。新八の出口近くに、キショウブが咲いていました。綺麗でしたが、残念ながら
- ・冷たい雨天にしては魚種数が集まった。新顔の女性が来訪し元気に川に入った。常連でも延期のメールに期待した程のきつい天候を、いつもこんな悪いと思わないで欲しい！
昨秋以来久しぶりにゴクラクハゼの青緑色の鱗が輝いていた。上手な和名を付けたものだ。
トウヨシノボリとクロダハゼの和名の異同について質問を受けた。産卵期の色斑から永らく前者が使われてきたが、学名の種小名が命名者の姓に因んで *krodai* とされたためかクロダハゼという和名に変更された。他種のヨシノボリ類が色斑に因んだ和名だから、頑なに学名に委拠した名前には違和感が消えない。（YK）
- ・中学生の頃来てた子が久しぶりの参加、一緒に投網打っていると胸が熱くなりました。（MT）
- ・魚類ではないが、水路でタイコウチが捕獲できて良かった。一方で、いつも採れるギンブナやメダカはなぜか採れなかった。（AT）

【今後の調査日】

6月4日(日) 7月15日(土) 8月12日(土) 9月10日(日)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

環境課からのお知らせ

自然環境係 電話：5654-8237（直通）

お友達や知人の方など

★自然環境レポーターに誘ってみませんか★

広報かつしか7/5号に掲載いたします！



現在葛飾区では、多くの方に自然や生きものに興味を持ってもらうことが大切だと考えています。皆様が参加されているこの「葛飾区自然環境レポーター」制度は、今まで自然観察をされたことがない方でも気軽に楽しんでいただける内容のものとなっております。今後もこの制度をきっかけに、身近な自然や生きものに興味を持っていただける方々をますます増やしていきたいと区として考えております。

今年度の自然環境レポーターの新規加入者募集も始まります。この機会にぜひ、皆様のお友達や知人の方などを自然環境レポーター制度に誘っていただき、一緒に研修会に参加してみませんか？そして、環境レポートを友人・知人と相談しながら作成すると、レポーター活動もより楽しめるのではないのでしょうか。

もし、ご紹介していただけるお友達や知人の方などいらっしゃいましたら、事務局までお知らせください。よろしくお願いたします。

【申込期限：令和5年7月24日（月）】

★もうすぐ自然環境レポーターの更新の時期になります★

自然環境レポーターの皆様には9月1日から1年の任期で活動していただいております。現在のレポーターの皆様におかれましては、引き続き活動していただければ幸いです。後日、意思確認の通知を郵送いたしますので、必ず返信または、自然環境係までご連絡くださいますようお願いいたします。



★自然環境レポーター委嘱式・研修会★

委嘱式と研修会を「エコライフプラザ」にて、9月2日（土）の午前10時～12時に行うことを予定しています。年1回の委嘱式ですので、レポーターの皆様のご出席をお待ちしております。

※詳細は、後日ご案内いたします。

★鳴く虫の女王「カンタン」と秋に鳴く虫を聴く会★

令和5年9月頃に、区内のカンタンの里での実施を以下のとおり予定しています。
詳しい内容については、今後広報に掲載予定です。

- ・9月上旬～中旬頃、
西亀有せせらぎ公園（西亀有1-10-1先）にて。
- ・9月15日（金）、
青戸平和公園（青戸4-23-1）にて。



★綾瀬川で水辺環境調査を行います★

採取した生きものを展示して、その場で調査結果の概要を説明します。
直接会場へお越しください。 駐車場はありません。

日にち 7月19日（水） 〈予備日7月20日（木）〉
時間 11時30分～12時（調査報告）
場所 綾瀬川（東四つ木避難橋付近）

★新ハ水路で魚類調査を行います★

日にち 7月15日（土） 8月12日（土） ※直前に確認して下さい。
10時～16時ごろ
場所 江戸川河川敷 ※事前にご連絡をお願いします。
持ち物 着替え、昼食、飲み物、首に巻くタオル、短くないソックス
☆詳しくは、HP（<http://shigenoril.jimdo.com/>）をご覧ください。



～夏号でご協力いただいたみなさま～

Rさん、有泉桂子さん、瑛ちゃんさん、江戸川の小鮒さん、
K・Nさん、慶蔵さん、佐々木定治さん、散歩の花子さん、
下山田隆さん、高橋雅子さん、田村ひろ子さん、千葉美文さん、
となりさん、トム姉さん、ひらいかつむねさん、広瀬温さん、
藤並剛さん、むしあおさん、ゆきひめさん、Ryuさん、
自主生物調査団(編集:一澤成典さん)

ご協力ありがとうございました!

「水辺のふるさとかつしか」第325号
(葛飾区 自然環境レポーター通信第277号)

令和5年6月末日 発行

葛飾区環境部環境課自然環境係

〒124-8555 葛飾区立石5-13-1

Tel.(3695)1111 内線3522~3

直通電話 (5654)8237

fax (5698)1538



「水辺のふるさとかつしか」の内容について、
お間違い等お気づきの点がありましたらお知らせください。